

# 埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7  
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>  
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi

## 令和8年 賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会

令和8年1月13日(金)、「ステラ・デル・アンジェロ」において、公益社団法人埼玉県臨床検査技師会令和8年賀詞交歓会・各賞受賞記念祝賀会を、来賓・会員・賛助会員合わせて153名の皆様のご参加のもと、盛大に開催することができました。

本会は、猪浦一人副会長の挨拶により開会し、続いて松岡優会長より新年の挨拶が述べられました。その後、埼臨技賛助会員を代表して、株式会社エイアンドティー 坂本薫洋様よりご挨拶をいただきました。引き続き来賓の皆様のご紹介が行われ、埼臨技名誉会員 原繁一様のご発声により乾杯となり、和やかで賑やかな歓談のひとつきを過ごしました。

祝賀会の中では、各賞受賞者の紹介が行われました。ここで改めて受賞者の皆様をご紹介いたします。受賞者の皆様、誠におめでとうございます。



### 【埼玉県臨床検査技師会特別功労者表彰】

神山 清志 氏 (埼玉県臨床検査技師会 前会長)

### 【埼玉県公衆衛生事業功労者知事表彰】

山本 英俊 氏 (株式会社ビー・エム・エル BML総合研究所)

深田 茂則 氏 (埼玉医科大学病院)

久保居 由紀子 氏 (独立行政法人地域医療機能推進機構 埼玉メディカルセンター)

山下 康衣 氏 (埼玉県臨床検査技師会 前事務部長)

**【埼玉県臨床検査技師会功労者表彰】**

木暮 憲幸 氏（第52回埼玉県医学検査学会 学会長）

**【埼玉県臨床検査技師会誌優秀論文賞表彰】**

倉股 春希 氏（深谷赤十字病院）

受賞者への花束贈呈の後、埼臨技名誉会員 津田聡一郎様より受賞者への祝辞の後、各賞受賞者の皆様から謝辞が述べられました。今回も多くの方が受賞され、来賓の皆様を交えた記念撮影は、華やかなものとなりました。宴も終盤となり、昨年12月7日に開催された第53回埼玉県医学検査学会の学会長であった瀧沢義教様より、学会盛会の御礼が述べられました。続いて、2026年11月22日・23日に埼玉県で開催予定の第62回日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会について、学会長松岡会長、実行委員長原誠則理事より開催の案内と協力要請が行われました。最後に、山口純也副会長による閉会の挨拶をもって、本年の賀詞交歓会は盛会のうちにお開きとなりました。ご出席いただきました皆様に心より御礼申し上げますとともに、2026年が皆様にとりまして良い年となりますようご祈念申し上げます。

（文責：笛木知子）



## 全国「検査と健康展」開催される

令和7年11月23日（日）、ソニックシティ901・902会議室にて全国「検査と健康展」埼玉会場を開催した。本年度は埼玉県県民生活部青少年課とのコラボレーション企画として「夢を見つける！リアル体験教室 プレミア教室」を実施し、小学校4年生から高校3年生の生徒とその保護者から参加があった。

若い世代をターゲットとした本企画に36名の参加があり、体験内容は顕微鏡による血液細胞や悪性細胞の観察、果物ゼリーを用いたエコー検査、飲料水を使った尿検査、鼻腔検体採取体験など多岐にわたり実施し、併せて血液検査や心電図検査等のパネル展示も実施した。参加者からは多くの質問も寄せられ、若い世代が臨床検査に関心を持つ契機となった。以下、実務委員として参加した方の感想を掲載する。

一般社団法人浦和医師会メディカルセンター  
森 圭介

令和7年11月23日に開催された全国「検査と健康展」は、今年度から「未来の臨床検査技師を増やす」という新たな目的のもと、主に小学生を対象として実施されました。私は鼻咽頭からの検体採取体験と、新型コロナウイルスの抗原検査に関するパネルの説明を担当いたしました。

今回のイベントで最も難しさを感じたのは、専門用語を極力使わずに、検査の仕組みを分かりやすく伝えるという点でした。また、鼻に綿棒を入れる検体採取という行為自体も子どもにとっては不安を伴うため、一般的な言葉を選び、丁寧に説明することを心がけました。しかし、体験が始まると子どもたちは目を輝かせ、真剣に話を聞いてくれました。時折笑いも起きるなど、会場全体は非常に良好な雰囲気に包まれていました。また、周りの臨床検査技師の方々が、いかに深く、そして平易な言葉で説明しているかを間近で拝見し、その知識の深さとコミュニケーション能力に改めて驚かされました。これは、普段の業務では得られない貴重な学びとなりました。

今回の参加を通じて、未来の医療を担う子どもたちに臨床検査技師という仕事の魅力を伝えることができたと同時に、私自身もコミュニケーションの重要性と専門知識の再構築の必要性を強く実感できた一日となりました。

埼玉県済生会川口総合病院

幸田 早貴

ソニックシティにて開催された全国「検査と健康展」埼玉会場に実務委員として参加しました。対象は小学生～高校生とその保護者と、例年とは少し異なったものでした。

私は1日を通して、体験ブースのエコー検査を担当しました。果物が入ったゼリーをつかってエコーで果物を見てみようというもので、実際にエコー画面に映ったときのお子さんたちの反応がとても良かったです。お子さんだけでなく、保護者の方もとても熱心に耳を傾けてくださり、「どうすれば検査技師になれるの?」「超音波の検査って、痛くないの?」など様々な質問もありました。

今回のイベントを通して、他の体験ブースやパネルの説明をしている技師の方々が、お子さんたちにも理解しやすいよう、わかりやすい言葉を選んで説明していることや誰でも知っているようなアニメキャラクターを用いて説明するなど、工夫がなされており私自身とても勉強になりました。またこのイベントを通じて、臨床検査技師という仕事を少しでも多くの方に知ってもらい、身近に感じていただけていたら嬉しいなと思います。今回、このような有意義で貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

防衛医科大学校病院

福島 明音

ソニックシティビルで開催された全国「検査と健康展」埼玉会場の実務委員として、初めて参加しました。今回のイベントでは、小学生などの若い方に向けて、臨床検査技師の仕事の一部を体験していただく企画でした。私は尿試験紙を用いて、疑似尿の蛋白や糖を実際に調べる検査体験、尿沈渣で認められる細胞の説明や、大腸がん早期発見に大切な便潜血検査の説明を主に担当しました。

初めは難しいかなと思っていましたが、子供達は思っていた以上に積極的に試験紙の色の変化に驚いた様子や、疑似尿の色の違いまで気になる姿をみて、こちらも嬉しい気持ちになりました。また尿沈渣細胞では、尿路上皮細胞の正常と異型細胞の写真を提示し、どのような違いがあるか質問した際に、スラスラと特徴を回答している子がいるのが印象的でした。

今回の体験を通じて、将来の進路や職業観を考える際の一助となり、医療を身近に感じてもらえたらいいなと思います。また私自身も、臨床検査技師の仕事の大切さや楽しさを改めて感じる事ができました。



お知らせ

## 埼玉県臨床検査技師会 OB会入会へのお誘い

埼玉県臨床検査技師会OB会は、定年退職された方や長く賛助会員として勤め上げた方で組織し、親交を深めています。また、埼臨技の支援をいただき学会参加や埼臨技会報など配布し、これまで同様に技師会との変わらない絆を大切にしています。

OB会の趣旨、活動に賛同し入会を希望する方は、下記記載のメールアドレスまたは電話で問い合わせさせていただきたくご案内申し上げます。

埼玉県臨床検査技師会事務所内

E-mail : sairingi-ob@sairingi.com Tel : 048-824-4077

# 研究班研修会報告

テーマ **髄液検査のスキルアップ ～ 経験不足を解消しよう～**

主催 一般検査研究班

実施日時：2025年11月28日 19時00分～21時00分

会場：浦和コミュニティセンター 第15集会室 教科・点数：専門教科－20点

講演 1：髄液細胞トレーニング

講師 1：藤村 和夫（埼玉県済生会川口総合病院）

講演 2：当院における髄液検査の現状

講師 2：渡邊 裕樹（埼玉医科大学総合医療センター 中央検査部）

講演 3：小児脳神経外科の臨床現場から学ぶ髄液の世界

— 検査が楽しくて意味あるものになる、脳の病気と髄液のおはなし —

講師 3：佐々木 みなみ（地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター 脳神経外科）

参加人数：会員59名 賛助会員1名

出席した研究班班員：藤村和夫 渡邊裕樹 柿沼智史 小針奈穂美 松本実華 林達矢  
福島明音

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は「髄液検査のスキルアップ～経験不足を解消しよう～」をテーマに浦和コミュニティセンターにて現地開催した。

講演1の藤村氏からは、髄液細胞の鑑別を中心に髄液検査の細胞数算定までの講演があった。髄液細胞数算定は迅速さが求められる。検査室に届いた時点で肉眼的所見を確認し、髄液の状態を確認することが重要である。形態の鑑別には、大きさ・細胞質・染色性をポイントとし計算盤のマス目を利用した鑑別法を、画像を用いて紹介した。また、赤芽球と変性好中球についても取り上げた。検体数が少ない施設や目合わせのために、血算の残検体を用いての監査試料の作製方法を紹介した。

講演2の渡邊氏からは、自施設の鏡検法・機器測定・FilmArray運用について講演があった。鏡検法の特徴として機器測定では捉えられない、腫瘍細胞、細菌・真菌感染症や変性細胞を検出できる点をあげた。また、陈旧性出血を示唆するヘマトイジン結晶も鏡検法でしか検出できない成分である。課題として内部精度管理、要員間差があげられた。機器測定ではスキュッタグラムを活用し機器測定では確認できない要鏡検例を取り上げた。鏡検法・機器測定どちらも良い点、悪い点を理解し各施設にあった運用が求められる。多項目遺伝子検査FilmArrayは同時に多項目測定できるため、起炎菌の同定時間短縮、抗菌薬の投与期間短縮にも繋がったと報告があった。しかし、非常に高コストであることや一部病原体の検出感度が不十分であるため、従来の検査法と合わせての評価が必要である。

講演3の佐々木医師からは「小児脳神経外科の臨床現場から学ぶ髄液の世界」として、手術中などの映像を用いての講演となった。腰椎穿刺と脳室ドレナージによる髄液採取の映像は採取の難易度の高さが容易にわかる映像となっていた。検査室に届く髄液の検体量が少なかったとしてもできる限り検査しなくてはならないと感じさせた。髄液が生成される脈絡叢や脳室内の術中映像を視聴できたのも貴重な体験となった。また、髄液のパラダイムシフトと称して最近の研究についても講演した。くも膜下に存在するリンパ管から代謝物の排出への関与が示唆されているなど、髄液に対して新たな見解が報告されている。

今回、日常業務で役立つ内容から、普段聞けない臨床の立場からの髄液の見方や採取など非常に参考となる内容であった。

（文責：林達矢）

テーマ **師範から継承される形態学 骨髄形態セミナー**  
～ 標本観察を納得いくまで～

主催 血液検査研究班

実施日時：2025年11月30日 13時00分～16時40分

会場：学校法人 明星学園国際医療専門学校 臨床検査実習室 教科・点数：専門教科ー20点

講師：大畑 雅彦（ベックマン・コールター株式会社）

堀口 大介（獨協医科大学埼玉医療センター）

堀内 雄太（川口市立医療センター）

島田 崇史（埼玉医科大学 総合医療センター）

石田 沙妃（学校法人明星学園 国際医療専門学校）

吉澤 悟（壮幸会 行田総合病院）

窪田 勝己（埼玉医科大学病院）

山崎 淳也（株式会社TLC 戸田中央臨床検査研究所）

協 賛：ベックマン・コールター株式会社

参加人数：会員29名 賛助会員4名

出席した研究班班員：堀口大介 堀内雄太 島田崇史 石田沙妃 吉澤悟 窪田勝己 山崎淳也

研修内容の概要・感想など

鏡検実習では、4～5名の5つのグループにわかれ、各グループで研究班が用意した骨髄標本の観察を行い、骨髄検査所見用紙に記載をしていった。骨髄検査の経験が浅い技師から認定資格を有する技師まで幅広い参加があった。大畑雅彦氏や研究班員の助言をもらいながら、それぞれの症例の観察のポイントや追加検査の考察など多角的に捉えることができた。標本観察後に研究班員の石田沙妃氏からの解説と大畑雅彦氏からの追加解説があった。今後認定試験を受ける技師や日常業務に活かしてもらいたい。

（文責：窪田勝己）



以下に参加者の感想を掲載する。

獨協医科大学埼玉医療センター  
田崎 翼

標本観察をじっくりできるということで、今回の骨髄形態セミナーに参加させていただきました。私自身、血液検査室に異動して1年くらいであり、末梢血液像の鏡検は行っていますが、骨髄標本の観察はまだ行っていません。経験年数も様々な方たちと同じ班となり、鏡検を通して意見を出し合うことができたのはとても勉強になりました。また、半数近くの参加者が県外ということもあり、他施設との情報交流の場にもなり良い機会となりました。特に印象に残っているのは、大畑先生の「骨髄検査はベッ



ドサイドでの患者さんの動きの観察から始まっているんだよ。」という言葉です。ベッド上での患者さんの体位変換の動きが、その後の予後にもつながっているとのことでした。次回またこのように研修会が開催される際には、ぜひ参加したいですし、今回よりも理解が深められるようにレベルアップしていきたいです。最後になりましたが、講師の大畑先生をはじめ血液検査研究班の皆様、バックマン・コールター株式会社の皆様ありがとうございました。

埼玉医科大学病院  
野口 彩紀子

骨髓形態セミナーでは様々な血液疾患の骨髓標本の鏡検とその関連知識を学ぶことができました。研究班の方に質問しやすい環境で、骨髓検査所見用紙の書き方といった基本的なところから、疾患特有の異常細胞や鑑別するための必要な検査まで学ぶ機会となり、1つ1つの症例から得られる情報が多く有意義な時間でした。また、いただいた資料も今後の検査業務で活用していきたいです。大畑先生の講義では、急性骨髄性白血病を疑う症例において電子カルテで確認すべき項目、鏡検中につまずいていた単球系細胞や骨髓好中球系細胞の分類、フローサイトメトリーの解釈方法など詳しく教えていただき、非常に勉強になりました。グループ内の方と所見の確認、他施設との情報共有することで今後のスキルアップにもつながりました。この度は充実した研修会に参加させていただきありがとうございました。



## テーマ 第27回秩父臨床化学セミナー

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：2025年12月20日14時00分～21日12時00分

会場：宮本の湯（秩父郡小鹿野町） 教科・点数：専門教科－30点

講演 1：その外れどうする？ ～精度管理の基礎と実務～

講師 1：稲葉 拓郎（株式会社アムル 上尾中央臨床検査研究所）

講演 2：髄液・体腔液検査のトピックス

講師 2：藤村 和夫（埼玉県済生会川口総合病院）

講演 3：検査室ご案内します ～臨床化学検査室の1日～

講師 3：三木 隆治（獨協医科大学埼玉医療センター）

講演 4：“偽”を見抜く力 ～異常反応への実践アプローチ～

講師 4：土筆 智晶（北里大学病院）

講演 5：ナイトセミナー ～MT×AI 秩父臨床化学編～

講師 5：杉村 楓（越谷市立病院）

講師 5：関根 梢恵（上尾中央医科グループ 白岡中央総合病院）

講演 6：糖尿病検査の基礎と最新のトピックスについて

講師 6：畠中 仁（キヤノンメディカルダイアグノスティクス株式会社）

講演 7：Lp (a) の最近の話題について

講師 7：菅 俊香（ニッポーメディカル株式会社）

講演 8：診療報酬の仕組みについて

講師 8：菅 俊香（ニッポーメディカル株式会社）

参加人数：会員47名 賛助会員31名 非会員1名

出席した研究班班員：北川裕太郎 廣瀬良磨 杉村楓 稲葉拓郎 田中満里奈 河野邊和弘  
関根梢恵 永井謙一 福島渉

研修内容の概要・感想など

今年度で27回目となる秩父セミナーを12月20日～12月21日の2日間で開催した。

稲葉氏の「その外れどうする？～精度管理の基礎と実務～」では、精度管理について内部精

度管理や外部精度管理の基礎的なことから実際の事例を交えて2SDから外れた場合の対処方法を聞くことができた。内部精度管理では、内部精度管理の種類、SDやCVの計算方法、外部精度管理では、外部精度管理の種類や評価方法をお話しいただいた。実際の事例では、表示値の変え忘れ、ランプの劣化、キャリブレーションの選択漏れ、試薬の気泡による吸引エラーで起こったエラーを自身の経験をもとにお話しされていたため、わかりやすく理解につながった。

藤村氏の「髄液・体腔液検査のトピックス」では、髄液・体腔液とは何かから始まり、検査方法や検査意義など基本的なことをお話しいただいた。髄液検査は、脳神経系疾患の診断や髄液圧を下げる治療の一環で行い、体腔液は、病気の原因や進行度を把握するために行う。また、最新の知見もお話しいただき、過去の知識からのアップデートになり、学ぶことの多い講義となった。

三木氏の「検査室ご案内します～臨床化学検査室の1日～」では、三木氏の勤務先である獨協医科大学埼玉医療センターの臨床化学室での人員構成やシフト管理、検査方法・項目や検査に使用している機器のお話をいただいた。1日のシフトとして検体搬送が3名、生化学担当が1名、血糖担当が1名、免疫担当が1名であり、実際のシフト表を見せていただきながらお話しいただいた。また、一部検査室内風景を見せていただき、他施設の方々が気になっているであろうことを多く聞いたのではないかと感じた。

土筆氏の「“偽”を見抜く力～異常反応への実践アプローチ～」では、異常反応が起こった際に何を考え、どう対処していくかを初心に立ち返りお話しいただいた。自施設でできる解析法として、①反応タイムコースの確認、②乳び処理、③他試薬・測定方法、④希釈直線性試験、⑤ポリエチレングリコール(PEG)処理、⑥免疫グロブリン吸収試験、⑦試薬成分添加試験、⑧蛋白電気泳動、⑨シアテストのお話をいただいた。日常検査で異常反応が起こることは稀ではなく、そこで実際に直面した際にどう対応するのかこの講義を参考にし、責任を持って検査を行っていければと思った。

懇親会終了後には杉村氏、関根氏による「ナイトセミナー ～MT×AI 秩父臨床化学編～」がグループワーク形式で行われた。事象に対してグループ内で様々な立場や経験から考えをまとめ、発表をするというものであった。AIは今や検査データを与えるだけで考えられる病態をかなり詳しく提示してくれ、技術の進歩に驚いた。臨床検査技師はAIに対してどのように活用し応用していくのかを考える良いきっかけとなった。また、日常の悩みを相談できる場でもあったため、参加者同士が横のつながりを持つことができたと感じた。

畠中氏の「糖尿病検査の基礎と最新のトピックスについて」では、糖尿病検査の基本的な知識と最新の話題についてお話しいただいた。糖尿病検査の基礎では、①糖尿病について、②血糖コントロールマーカー、③HbA1cについて、④GAについて、⑤1,5-AGについてであった。それぞれの項目の基礎的な測定原理から基準範囲、特徴を多くの図や表が用いられていてわかりやすかった。また、最新のトピックスでは、自己血糖測定器や糖尿病遺伝子検査について最前線の話聞くことができた。

菅氏の「Lp(a)の最近の話題について」では今話題のLp(a)の概要や特徴についてお話しいただいた。Lp(a)についてほとんど無知であったがLp(a)とは何かから始まり、高値だとなぜ問題であるのか、遺伝との関係性まで聞くことができ理解を深めることができた。現在、Lp(a)は研究が続けられており核酸医薬の開発にまで発展している。「診療報酬の仕組みについて」では診療報酬はどのように設定されているかについて細かくお話しされた。検査の診療報酬点数は昔に比べかなり下がっており状況は厳しくなっている。私たちが検査部として収益を確保していくためには何をすべきか考えさせられた。

今年の秩父セミナーは、参加者が昨年より10名程度増え、他都県からも数多く参加していただき大いに盛り上がった研修会となった。ナイトセミナーや懇親会で参加者同士の繋がりができたセミナーであったと感じた。来年度もこの繋がりをさらに広げていけるよう継続していきたい。

(文責：福島渉)

## ● 秩父セミナー感想

東京都立小児総合医療センター  
堀口 瑞姫

私は2017年から秩父セミナーに参加しています。本セミナーは毎年、現場に即した内容が扱われており、日常業務の中では立ち止まって考える機会の少ない事柄について、「そういうことだったのか」と改めて気付かされる点が多いです。今年は精度管理の基礎や髄液をはじめとする穿刺液検査のトピックス、非特異反応への対応など、実務に直結するテーマが印象に残りました。またナイトセミナーでは、現代のAIを活用したグループワーキングも行われ、非常に幅広い学びを得ることができました。委員の方々も同世代が多く親近感があり、懇親会では講義中に聞けなかった疑問も解消できます。ここまで充実した勉強会は貴重であり、埼玉県臨床検査技師会の皆様に深く感謝するとともに、今後も継続して開催してほしいと願っています。ありがとうございました。



株式会社アムル 上尾中央臨床検査研究所  
石橋 萌

今回はじめて秩父臨床化学セミナーに参加させていただきました。2日間のセミナーを通して精度管理や髄液・体腔液検査、メーカーの方による疾患の説明や診療報酬など様々な内容のものを学ぶことができました。ナイトセミナーでは埼玉県医学検査学会と同様のテーマである臨床検査技師とAIについて講演を受けました。グループワークで他施設の方と交流をし、自身の知識不足と先輩技師の方々の尊敬を改めて感じました。2日間のセミナーは非常に有意義なものとなり、臨床検査技師としてより成長していきたいと感じる研修会となりました。ありがとうございました。



千葉県がんセンター  
岩井 実都紀

今回初めて、千葉県から秩父セミナーに参加させていただきました。1泊2日の研修会自体ほとんど参加したことがなかったため、新鮮でとても楽しかったです。日常検査に必要な精度管理や異常値が出た際のアプローチの仕方など、基礎からしっかり教えていただきとても勉強になりました。これから実際に行っていくように努力したいと思います。また自施設は兼務で一般検査も行うため、髄液・体腔液のお話も聞けて良かったです。他にも、他職場の運用について知れることができましたし、ナイトセミナーではAIの話を含めて他都県の方とみんなでわいわい話せたことも面白かったです。2日目は、最近糖尿病チームに入ったこともあり、聞いてみたかった糖尿病検査のお話や名前は知っているけどよくわかっていなかったLp(a)、診療報酬についてのお話と最後まで盛りだくさんでとても勉強になりました。2日間通して知識はもちろんのこと、横のつながりを持てる研修会だったと思います。また参加したいです。



令和7年度  
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会  
第10回 理事会議事録

日 時：令和8年1月8日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項  
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事)松岡 猪浦 山口 濱本 阿部  
西田 三木 網野 藤原 伊藤  
塚原 神嶋 長谷川 神戸  
小林 工藤 久保田 長岡 原  
土田

(監事)島村 細谷

Zoomにて参加

(理事)佐瀬

欠 席：(理事)笛木

(監事)なし

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は21名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、松岡優会長が務めることとなった。

## Ⅰ. 行動報告

(令和7年12月11日～令和8年1月7日)

12月11日(木)令和7年度第9回理事会：

松岡、猪浦、山口、濱本、阿部、  
西田、三木、佐瀬、網野、藤原、  
伊藤、塚原、神嶋、長谷川、笛木、  
神戸、小林、工藤、久保田、長岡、  
原、土田、島村、細谷

12月17日(水)令和7年度人材育成研修会打ち合わせ：塚原、濱本

12月19日(金)会計部作業：小林

12月23日(火)ホームページ委員会打ち合わせ：  
濱本、塚原

12月23日(火)会計部作業：工藤

12月30日(火)事務所巡回：西田

## Ⅱ. 報告事項

### 1 事務局

1)12月25日(木)第17回埼玉県輸血フォーラムの後援依頼へ回答した。

### 2 総務部

- 1)12月23日(火)ホームページ委員会打ち合わせを行った。(別紙資料1)
- 2)1月15日(木)だより第560号発行予定。
- 3)1月18日(日)(埼玉県038)タスクシフト指定講習会開催予定：三木、藤原、西田、小林、濱本、佐瀬、猪浦

### 3 事業部

- 1)12月17日(水)令和7年度人材育成研修会打ち合わせを行った。(別紙資料2)

### 4 学術部

- 1)12月18日(木)「2月・3月生涯教育研修プログラム」の日臨技システム行事登録作業を完了した。

### 5 精度保証部 特になし

### 6 会計部

- 1)12月8日(月)令和7年度予算委員会を開催した。(別紙資料3)
- 2)令和7年度正会員費7名35,000円、入会金7名7,000円、合計42,000円の入金があった。
- 3)日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金48,000円の入金があった。  
693,500円/15回
- 4)日本赤十字社に精度管理、譲渡血液代として67,408円を支払った。
- 5)石井印刷に埼臨技だより559号Web版9P、46,200円、会誌Vol.72-No.2印刷代547,690円、仕分け梱包費26,356円、合計620,246円を支払った。

### 7 精度管理委員会 特になし

### 8 一都八県会長会議 特になし

### 9 日臨技関甲信支部 特になし

### 10 日臨技 特になし

### 11 第53回埼玉県医学検査学会

- 1)12月2日(火)第14回実行委員会を開催した。(別紙資料4)

### 12 令和8年度日臨技 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会(第62回)

特になし

## Ⅲ. 承認事項

### 1 事務局

- 1)会員動向(令和7年度分)

令和8年1月5日現在  
会員数 3,712名[令和6年度会員数3,612名]  
(新入会員259名)  
賛助会員 68社[令和6年度72社]  
承認された。

- 2) 令和7年度臨時会員総会議案書について  
(別紙資料5)  
上記の件について、第一号議案に関して阿部健一郎事務次長より発言が、また、第二号議案に関しては神戸考裕会計部長より発言があり、審議の結果、承認された。
- 3) 令和8・9年度の日臨技理事候補者について  
上記の件について、松岡優会長より発言があり、審議の結果、猪浦一人副会長を理事候補者として推薦することについて承認された。
- 2 総務部 特になし  
3 事業部 特になし  
4 学術部
- 1) 令和8年度研究班事業計画について  
(別紙資料6)
- 2) 令和8・9年度研究班班員(案)について  
(別紙資料7)
- 3) 令和8・9年度精度管理解析実務委員(案)について  
(別紙資料8)
- 4) 第53回埼玉県医学検査学会各賞受賞者について  
(別紙資料9)  
上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。
- 5 精度保証部 特になし  
6 会計部
- 1) 令和8年度研究班予算案について  
(別紙資料10)  
上記の件について、神戸考裕会計部長より発言があり(血液検査研究班予算案変更の説明もあり)、審議の結果、承認された。
- 7 精度管理委員会 特になし  
8 第53回埼玉県医学検査学会 特になし
- 9 令和8年度日臨技 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会(第62回)  
特になし
- IV. 議題
- 1 事務局 特になし  
2 総務部
- 1) 次年度(令和8年度)臨時総会の会場と日程の件  
上記の件について、三木隆治総務部長より発言があり、検討の結果、第1候補日を3月5日(金)としてレイボックホール抽選会にあたるとした。なお、第2候補日を3月4日(木)、第3候補日を3月12日(金)とした。
- 3 事業部 特になし  
4 学術部
- 1) 埼臨技会誌のオンライン化について  
(別紙資料11)  
上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、検討の結果、オンライン化を進めるとした。ID・パスワードをかけるか否かは編集委員会にて検討するとした。
- 2) 埼臨技研究助成金について(別紙資料12)  
上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、研究助成金の設立について検討するとした。
- 5 精度保証部 特になし  
6 会計部 特になし
- 以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

## あ と が き

2月に入り、まだまだ寒い日が続きますが、暦の上では春を迎えます。

この時期は、しびれるような冬の冷たい空気の中に、ふと混じる春のやわらかな感じが何とも言えず心地いい瞬間です。

冬から春へ季節が移り変わる瞬間は、寒い冬を乗り越え、新しい生命が芽吹く希望に満ちた時期であるように、私たちも、新しい季節に向けて心身ともに準備を始める時期かもしれませんね。

(山口 記)

